

ここ数年、コロナウイルスの流行は拡大と収束を繰り返し、さまざまなイベントが中止・縮小されてきました。教育活動も例に洩れず、日々私たちが接する学生・生徒・児童たちにも大きな影響を与えています。このように非常に厳しい環境下ではありましたが、日本バドミントン協会をはじめ、日本教職員バドミントン連盟、運営をしてくださった愛媛県の関係者の方々のご尽力によって、第61回全日本教職員バドミントン選手権大会を開催いただきました。大会に携わってくださいましたすべての方々に感謝申し上げます。

久々に全国の先生方とお会いできる喜びを感じながら、私たち神奈川県教職員チームも大会に向けて一体感を強め、愛媛県に入りました。その結果、団体戦ではエントリーした全ての種目で入賞を果たし、個人戦でも一般男子単複の優勝をはじめ、40歳以上男子単複、55歳以上女子複の活躍により、総合成績では準優勝という輝かしい成績を収めることができました。

今回は、その原動力となった一般男子単複優勝の内藤浩司先生についてご紹介したいと思います。

兄と姉がバドミントンをしていた内藤先生は物心がついた頃には自然とラケットを握っていたそうです。現在は神奈川県の私立藤沢翔陵高等学校に勤務し、バドミントン部で熱心に指導する毎日を送っています。

バドミントンを始めて間もない小学生の時、練習が辛くて辞めたいと監督に伝えると、「辞めさせない」と一喝されたことがあったそうです。振り返ると、そこからバドミントンに対する気持ちに変化があったようです。バドミントンを通じて「本気」に出会った瞬間でした。

目標は、常に「日本一」。ひたすら練習に打ち込んだものの、全国大会では何度も壁に阻まれます。悔しさを抱え、高校の進学で一大決心をします。「世界で活躍する選手を育成する」プロジェクトを立ち上げた福島県立富岡高等学校（現：ふたば未来学園）への入学です。内藤先生が入学した時がプロジェクト一期生でしたので、一年生から主将を務め、寮生活、外国人コーチの指導など、多くの経験をした三年間でした。バドミントンだけでなく、初めて接する全ての経験が人として大きく成長する時間と感じたようです。しかし、目標にはまだ届かず、最後の高校総体の県予選では本命のシングルスで出場を逃してしまいます。恩師である大堀先生（現：トナミ運輸）と一緒に泣いてくれたことがとても印象的で、【生徒ともに】涙を流せる教員になりたいと感じたそうです。

大学は日本体育大学へ進学。くじけぬ心に磨きをかけ、これまでの取り組みを結実させます。全日本学生選手権では団体、単の2冠を達成し、大東監督に「内藤は言われたことしか出来なかった、でも言われたことを吸収する。それが今回の結果に繋がった。」と言葉をかけてもらったことを今でも覚えているそうです。この結果と言葉を自信とし、卒業後はJR北海道、日立情報通信エンジニアリングと実業団の世界で活躍しました。

引退後は、自身の経験を競技力向上に還元したいと各拠点でコーチしています。藤沢翔陵高等学校での指導はもちろんのこと、地元のジュニアの強化をはじめ、これまでバドミントンで受けたさまざまな経験に恩返ししながら、教職の世界でも日本一を目指したいとのことです。

全国の先生方、今後も神奈川県教職員チームとともに、さらなる高みを目指す内藤浩司先生を宜しくお願い申し上げます。

〔文責〕神奈川県教職員バドミントン連盟事務局 北澄拓央

